



## 慶應義塾大学ビジネス・スクール

# 武田薬品工業株式会社 2011年

5

## 武田薬品工業の躍進

### 海外進出とブロックバスター

10

1980年代後半から、武田薬品工業株式会社（以下、武田薬品工業）は大きく成長をとげた。89年に前立腺ガン治療剤リュープリン、91年に抗潰瘍剤タケプロン、97年に高血圧症治療剤プロプレス、99年に糖尿病治療剤アクトスをそれぞれ発売し、これらは世界的に成功をおさめる。ちょうどこの武田薬品工業の躍進と重なるように経営トップとなったのが、創業家出身の武田國男前社長（93年社長就任）である。

15

國男氏は、上記4つの医薬品を国際戦略製品と定めて、グローバル化へと舵をきった。製薬業界では、1剤で年商10億ドルを超える新薬のことを「ブロックバスター」と呼び<sup>[1]</sup>、これら4つの製品は、いずれもブロックバスターとなった。

20

ではなぜ、グローバル化が製薬企業の成長にとって重要であったのだろうか。1つの要因として、日本の医薬品市場の伸びが期待できないことがあげられる。日本は1960年代より、国民皆保険制度が導入され、この公的医療保険制度の恩恵を受けて製薬企業は発展してきた。一方、現在の日本は急速に少子高齢化が進んでおり、高齢者の医療費約31兆円のうち約7兆円を占める薬剤費を抑制することが大きな課題となっている。

25

<sup>[1]</sup> 統一的な定義が存在するわけではないが、欧州委員会がこの定義を用いている。一方、ボストン・コンサルティング・グループでは、ピーク時の世界での年間売上高が5億ドル以上の医薬品をブロックバスターと呼ぶと定義している。

本ケースは、慶應義塾大学ビジネス・スクール准教授 村上裕太郎がクラス討議の資料として作成した。

本ケースは慶應義塾大学ビジネス・スクールが出版するものであり、複製等についての問い合わせ先は慶應義塾大学ビジネス・スクール（〒223-8526 神奈川県横浜市港北区日吉4丁目1番1号、電話045-564-2444、e-mail: case@kbs.keio.ac.jp）。また、注文は<http://www.kbs.keio.ac.jp/>へ。慶應義塾大学ビジネス・スクールの許可を得ずに、いかなる部分の複製、検索システムへの取り込み、スプレッドシートでの利用、またいかなる方法（電子的、機械的、写真複写、録音・録画、その他種類を問わない）による伝送も、これを禁ずる。

30

Copyright© 村上 裕太郎（2012年3月作成）